

ダンボール箱(みかん箱)で作ろう 簡単にできる生ごみ堆肥

この方法は、土の中の微生物が生ごみを食べて堆肥にします。

肉眼では見ることのできない多くの種類の微生物がかかわり、堆肥にするのです。

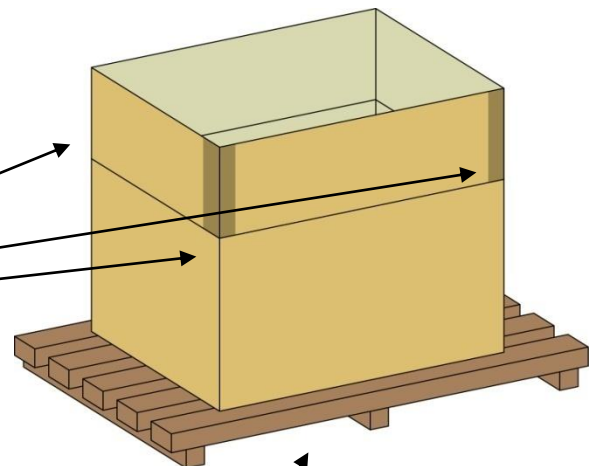
腐葉土と米ぬかで生ごみが消えていきます！出来た堆肥は化学肥料と違い、自然に出来る堆肥です。

用意する物

- しっかりしたダンボール箱
(10kg のみかん箱がよい)
- 箱の蓋にする大きめの布(木綿がよい)
- 蓋をしぼる紐^{ひも}
- 新聞紙(1日分の枚数)
- 布ガムテープ
- すのこ板など(苗ポット入れでもよい)
- 移植ごて(生ごみなどをかき混ぜます)
- 腐葉土(5kg)・・・落ち葉が微生物によって分解した土
- 米ぬか(3kg)
- 棒温度計

布ガムテープで補強！

1日分の新聞を箱の内底に敷き、腐葉土と米ぬか 5:3 をよくかき混ぜて入れる(床にする)



風通しをよくするためすのこ板等を敷く

作り方

① ダンボールで容器を作る。

- 箱の蓋を立てて角を内外ともガムテープで補強する
- 取手の空いている部分もガムテープでふさぐ。
- 湿気を防ぐために箱の内底に1日分の新聞紙を敷く。

② 床を作る

- 腐葉土(5kg)と米ぬか(3kg)をよくかき混ぜて箱に入れる。
- 水分調整・・・手で握って握り跡が残るくらいがよい。(含水率 50~60%)

③ 生ごみを入れる

- 床の中央を少し掘って穴を開ける。
- 生ごみは1回約 500g に米ぬか1~2握り位をまぶして掘った穴に入れ、よくかき混ぜる。
- 1日1回は切り返し空気を入れる→酸素を補給しごみを分解する微生物の活動がよくなります。

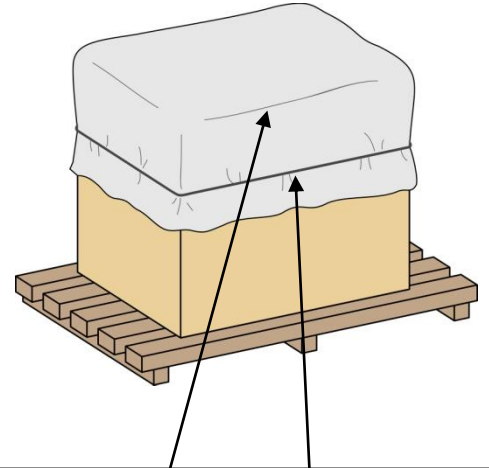
- 2～3日すると発酵して温度が上がってくる。
(冬は湯を入れた 500cc のペットボトルを中心に埋めると温度が上がります。)
- 箱の中の床の温度が 40 度位まで上がり、水分が蒸発し湯気が出てくる。米ぬかや廃食油を入れると温度が上がりやすい。(温度計で見てみましょう) 熱が出て生ごみが消えていきます。
- 乾燥気味の時^{とこ}は米のとぎ汁を少しづつ入れ、手で握って握り跡が残るくらいがよい。
(含水率 50～60%)
※含水量が多すぎると腐敗しやすくなるので注意！

④ 箱に覆いをする

- 虫が入らないように布（通気性のよい木綿の布）を掛け、紐で縛る（ゴムバンドでも OK）

⑤ 置く場所

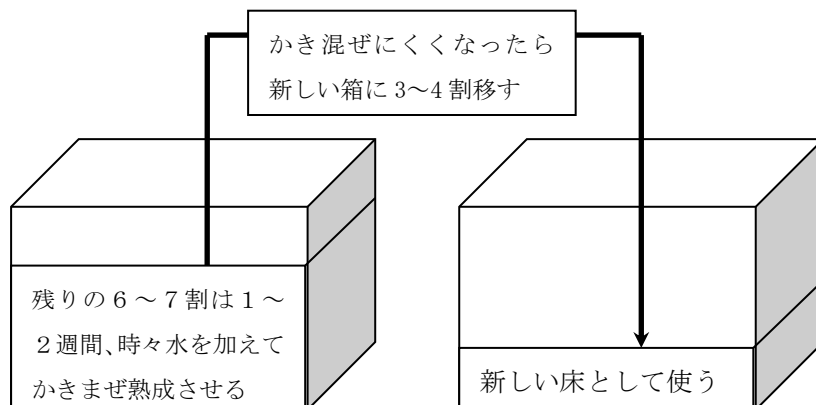
- 雨の当たらない、風通しがよく、日当たりの良い軒下やベランダがよい。
箱の下には風通しをよくするためにすのこ板（若しくは苗ポット入れ）を台にする。



通気性の良い布を掛け、虫が入らないように紐等で縛ってください

⑥ 量が多くなりかき混ぜにくくなったら・・・

- 新しいダンボール箱で容器を作り、3～4割移して続けて次の床^{とこ}として使う。
- 移した後の（6～7割）箱は生ごみの投入をやめ、1～2週間は時々水を加えてかきまぜ熟成させ、熱が出なくなり乾燥したら堆肥が完成。
- 畑にあけて土を混ぜるとさらに熟成が早まります。（土壌微生物によって盛んに分解）



⑦ 生ごみ堆肥の特徴

- 化学肥料と違って即効性はないが、効果が長く続く
- 化学物質による害がない
- 生ごみが分解されているので安心して使用できる
- 多量に使用しても害が少ない

あら不思議！
堆肥ができます。
畑でおいしい野菜や
花壇で綺麗な花を育てましょう！

⑧ 生ごみ堆肥の利用の仕方いろいろ

- ミネラルたっぷりの堆肥なので、土がふかふかになり、美味しい野菜ができます！
- 花壇やプランターの花の肥料にも最適！

— よ く あ る Q & A —

Q 1 温度があがりません！

- A
- ・廃食油（てんぷら油など）・こめぬかなどを入れると分解が活発になります。
 - ・肉類、魚類を多く入れると分解が早まり温度が上がります。
 - ・水分不足の場合も考えられます。米のとぎ汁をいれてみてください。
 - ・含水率が多すぎる（60%以上）と温度が下がり微生物が働かなくなります。
 - ・床の上に新聞紙2～3枚程度で覆い、保温すると温度が上がります。

Q 2 冬場はどうすればいいですか？

- A
- ・気温が10℃以下に下がると分解が進みません。一回り大きい箱で覆う、床の上に新聞紙2～3枚敷くなどの保温の工夫をしてみましょう。
 - ・ペットボトルにお湯を入れて湯たんぽがわりにするといいです。

Q 3 臭いが出てきました。

- A
- ・生魚・イカゴロ・肉類などの投入量が多いとアンモニア臭がでます。分解が進むようによくかきまぜましょう！
 - ・含水率に注意！多すぎないようにする。

Q 4 うじ虫がわいてきました

- A
- ・微生物の好きな糖類のもの（Q1のA）を入れて温度をあげましょう！60℃近くまで上がります。自然にうじ虫がいなくなります。箱の蓋に虫が入りやすくなっていないか確認しましょう。それでもだめな場合は、ビニールに全部移し、袋の空気を抜いて天日干しをしましょう。
 - ・台所の流しもとで虫が卵を産みつけた場合もわくことがあります。生ごみは腐敗しない新しいうちに処理しましょう。

Q 5 生ごみを入れるときに注意する物がありますか？

- A
- ・繊維質の多いものや堅いものは、小さくして入れると分解が早く進みます。（かき混ぜるときも楽！）

問い合わせ

坂城町ごみ減量化推進員会

事務局：坂城町役場 住民環境課 環境保全係

TEL 82-3111（内線125）